



Team石川



小中一貫CSだより第36号

平成31年3月11日発行 石川小・中学校 文責（松）

15歳の姿：将来への憧れ・夢・希望・目標をもち、意欲的に学習に取り組み自分の考えや思いを豊かに表現できる子ども

第4回学校運営協議会

2月26日（火）、中学校において、平成30年度第4回学校運営協議会が行われました。その概要についてお知らせします。また、乗り入れ授業もその日行われ、参観していただきました。



体を使って歌う様々な練習をしましたが、一生懸命歌う姿勢に心が動かされました。授業をしてとても楽しく、6年生の皆さんのパワーを感じました。中学校入学後また会えることを楽しみにしています。（川村先生）

1 授業参観

1年理科、あじさい学級理科、2年生総合的な学習の時間（修学旅行事前活動）、3年数学
小学校6年（中学校音楽室で乗り入れ授業；卒業式式歌〈旅立ちの日に〉練習；左写真）

2 協議会

（1）小学校学校評価説明

課題の改善策に対する評価と意見交換
（小学校の主な課題；①学習について②相談活動について③思いやりの育成について）

（2）中学校学校評価説明

課題の改善策に対する評価と意見交換

（中学校の主な課題；①家庭学習を含む学習の充実について②保護者との連携について③健康教育の推進について④特別支援教育について）

（3）地域コーディネーターの活動報告

- ・学校支援ボランティアについて
- ・子どもの活動推進事業について

（4）学校運営協議会委員の継続について

（5）教育自立圏推進プランについて

- ・次年度の学校運営協議会について

【5/13〈月〉、9/5〈木〉、12/3〈火〉、
2/26〈水〉】

- ・次年度のあいさつ運動について・・・一斉取組日の確認
- ・次年度の小中連携の取組について・・・合同健康マラソン、合同合唱など
- ・今年度のプラン評価について・・・地域住民の意識、市教委への要望など

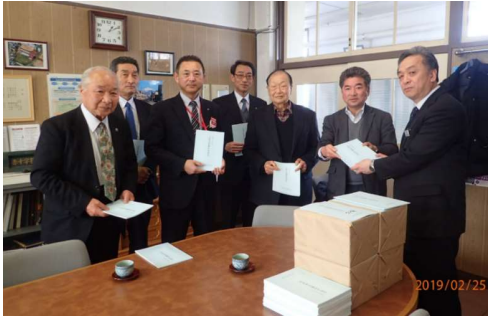
（6）その他意見交換・情報交換

- ・虐待について・携帯電話等の持ち込みについて・SNSの問題点について
- ・感染症について（小学校）・進路の状況について・三味線指導の支援について（中学校）

来年度も三味線を行う予定です。指導の支援をしていただける方を募集します。



「少年よ世界をめざせ」文集贈呈



2月25日（月）、子供達を支援する会（代表;工藤良憲氏）のメンバーの方々が、中学校校長室を訪れ、11月に「ひろさき卍学」として行われた「ふれあい授業」（講師;弘前市農林部りんご課課長補佐・成田修氏）の感想文集

少年よ世界をめざせ

平成三十一年二月

子供達を支援する会
青少年健全育成講座

「少年よ世界をめざせ」の贈呈式を行いました。この文集には、成田課長補佐の講話「君達の夢は？」への生徒全員の感想が掲載されています。また、石川地区では東信石川支店、JAいしかわ支店、石川郵便局、弘前市役所石川出張所、工藤医院、畑山医院にも置いてありますので、是非、手に取ってご一読ください。なお、中学生全員にも配布しておりますので、保護者の方も是非、ご覧ください。以下、生徒の感想文を二つ紹介します。

父のすごさ

1年 白戸公紳



私は、今日の授業を受けて、地域職場体験学習に続いて、働く大人から学ぶことができたので、とても良い機会だと思いました。

今日の講話を聞いて、私は改めて弘前のりんごの生産量がすごいいと感じました。でもその裏には、生産者達の苦労や市が生産量を減らさないように努力していることがわかりました。仕事をすることとは、楽なことばかりではない、ということも学びました。私の父もりんごを作っています。父は私が寝ている時から仕事を始め、夜遅くまで仕事をしてくれています。父は、りんごだけでなく、にんにくや枝豆も作っているの、忙しい時は朝も昼も食わずに仕事をしてくれています。私は、今日の講話を聞いて、改めて父の仕事の様子、またその大変さを感じ取ることができました。また、父に作物を育てる仕事に対して、どこが大変だと思っているのか、また、うれしいと思ったことがあるのか、など父に、父の仕事に対して聞こうと思いました。

講話全体を通して私は、自分の将来について考えなければならないと思いました。いずれ将来の生き方について決める時が来ると思うので、自分の将来について常に考えようと思いました。また、そのことについて考える時でも、今自分の中にある情報だけで考えるのではなく、本やインターネットを使って調べたり、親に聞いたりして、広い視点で考えようと思いました。また、自分で決めた道に進むために、今できること、今やっていること、今自分に必要だと思うことなどに全力で取り組みたいと思います。

今日の講話を聞いて、私が学んだことは二つあります。一つ目は、今いる地域のことについて理解を深めることの大切さです。私がどの場面で学んだかということ、「りんご」についての話を聞いていくうちに、改めて身近にあるものすごさを感じたからです。二つ目は、夢をもつということです。普段何気なく生活するのではなく、夢をもって生活したいと思いました。そこで、私はまず夢を見つけようと思いました。

地域を知る

3年 木村 基

りんごは青森県が全国でトップの生産量を誇る果物で、僕達青森県民にはとても関わりの深い果物です。小さい頃からおじいちゃんやおばあちゃんの手伝いをしていたという友達も僕の周りにはたくさんいます。さらに、桜の名所である弘前、その桜にもりんごの剪定という技術が生かされています。そんな青森県と関わりの深いりんごですが、近年生産者の高齢化や後継者の不足などという課題に直面しているということを学校の授業で聞きました。りんごの栽培はとても手間がかかり重労働というイメージが後継者の不足などにつながっているようです。このイメージを払拭し、今よりもさらに青森県りんご栽培を活性化させるためには僕達中学生には何が必要なのでしょう。僕は、自分たちの住んでいる地域についてもっと知ることが必要だと思いました。なぜかという、自分達の地域について知らない、地域が衰退して気付いた時には手遅れになっているかもしれません。だから、まず自分達の地域についてよく知り、そこからどうしたらよいか考える必要があると思います。中学生に出来ることは小さいことかも知れませんが、自分の地域について関心の高い人が増えれば、将来青森はもっと活性化していくのではないかと思います。だから、僕自身も、身近なことだからこそ、わかったつもりにならず、もっと地域について関心を持ち、将来は地域の役に立てるような仕事に就きたいと思いました。青森県が今だけでなく、僕達の子供の時代になっても、りんごの名産地として周囲に誇れるように、これからは生活の中で知る、ということも大事にして生活したいと思います。

